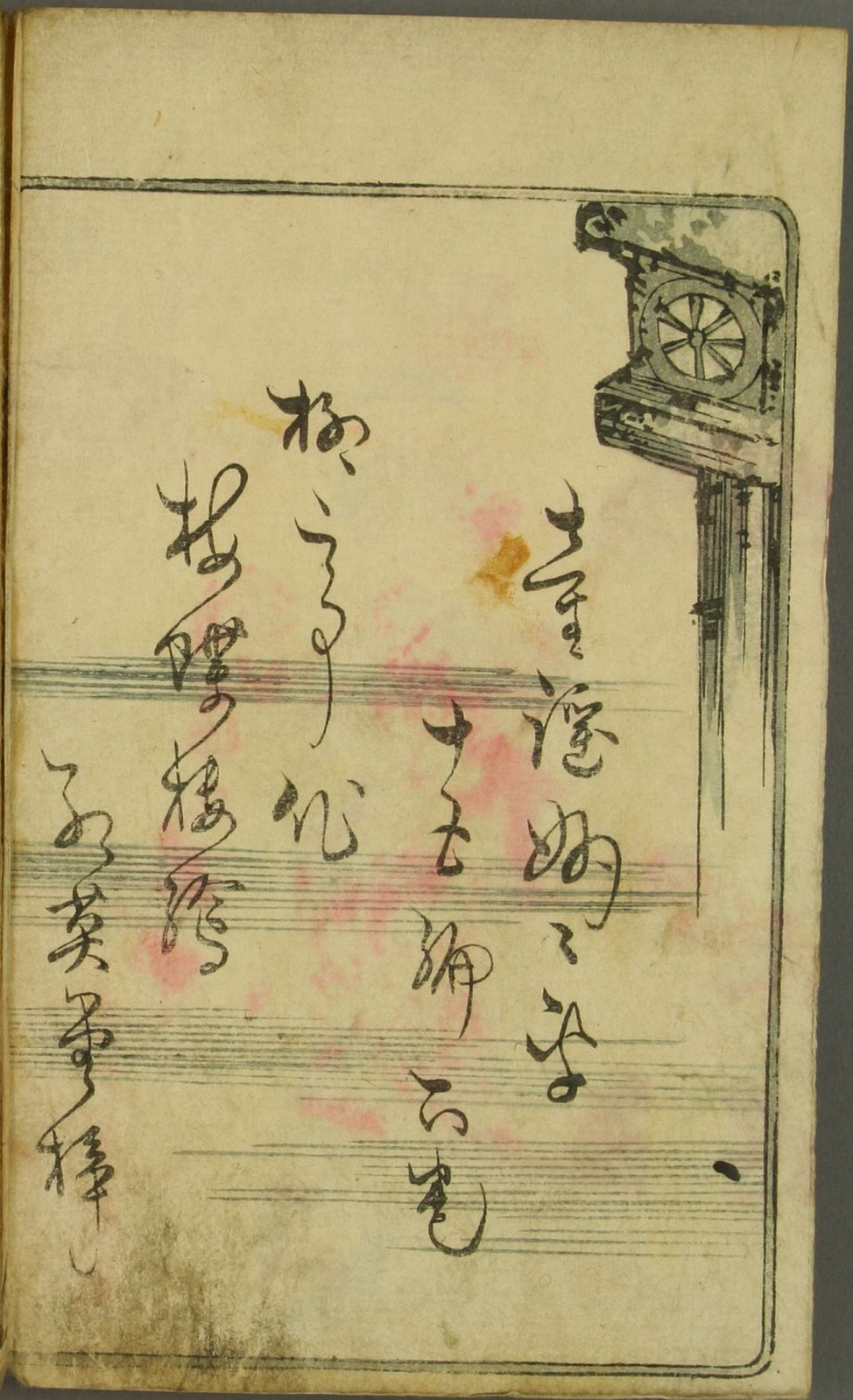
特別
へ13
1181
8

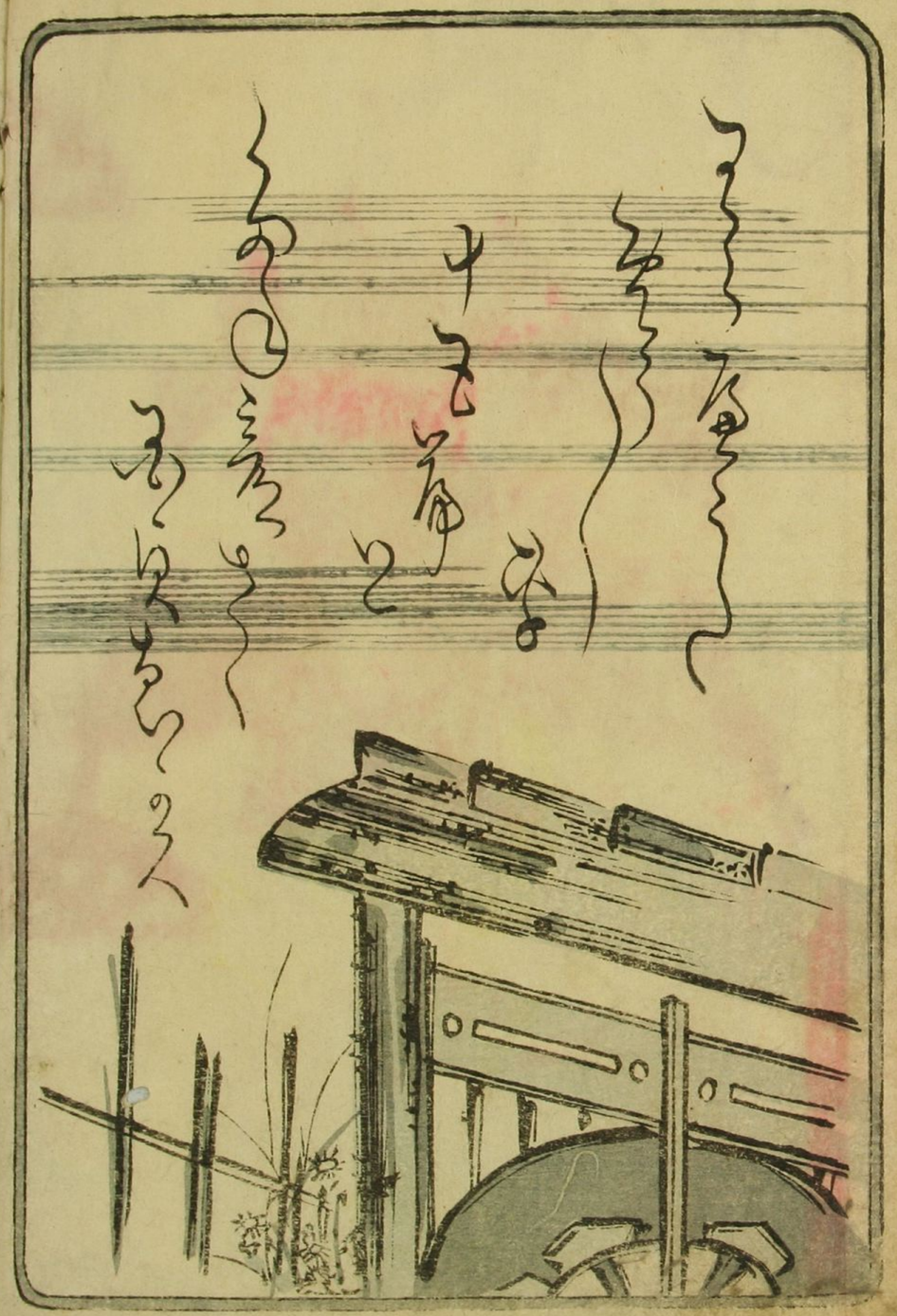
十五編下

十五編上

仆題曲五周忌

特別
へ13
1181
8





車榻の許へ百夜通ひと云故事袖中抄に未だ見えざれど誰とも久のあれ昔話ふる曾て小町の事よりも謡曲の作者深草の少将と云人をも造添て通小町と云物をもて拠て編出したるよう小野小町の事と定り妙々車へ

一

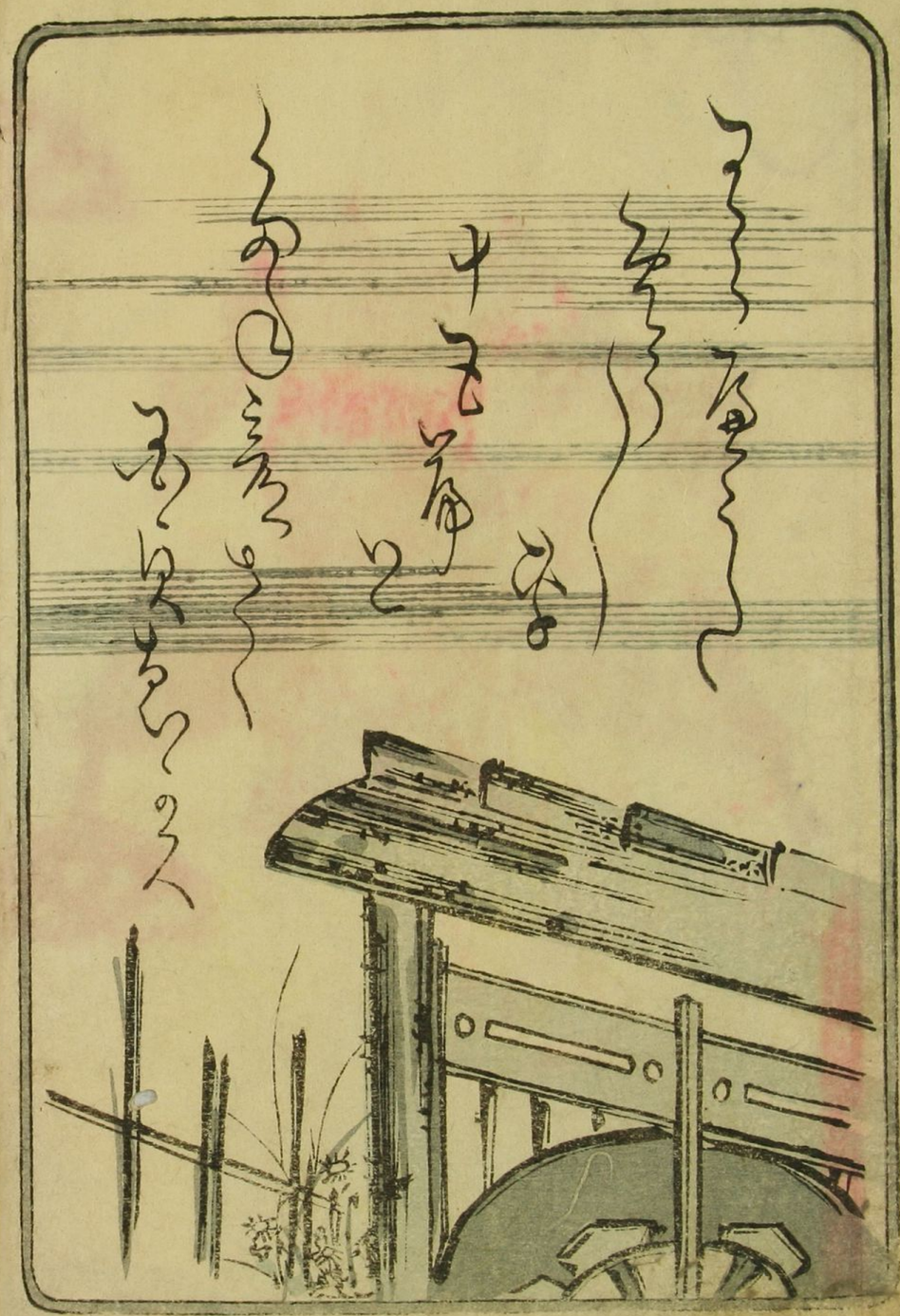
車榻の許へ百夜通ひと云故事は袖中抄に委く見えられど誰とも久のみな
昔話にも曾て小町の事よりも謡曲の作者深草の少將と云人をもて造添て
通小町と云物をもて拠て編出したるより小野小町の事と定り妙々車へ
何とも解せぬ幼童の吟ずるを車僧の傍に摸せ妙々道人の無物と思れ
ものどろくまどろくを人名と合巻好に合點させたる今戸の手柄も鬼の年に
賣出させ故まもなくうん僕狸の土の舟重い筆にて嗣編なる己に前なる
申如く車どうけにも回りて稿本存外遅々まるで雨の降日も風吹ざるも引
きうのあの催促に未咲揃ぬ昌蒲にあらぐ詞の花の手入もるらんに讀
返しもせぬ横書のまるに投出せし此一編いかゝ中なる
錢車の糸より老けて作躰なるべし

文久二春

玄湖備書

種彦

後傳紫樓



阜月姫

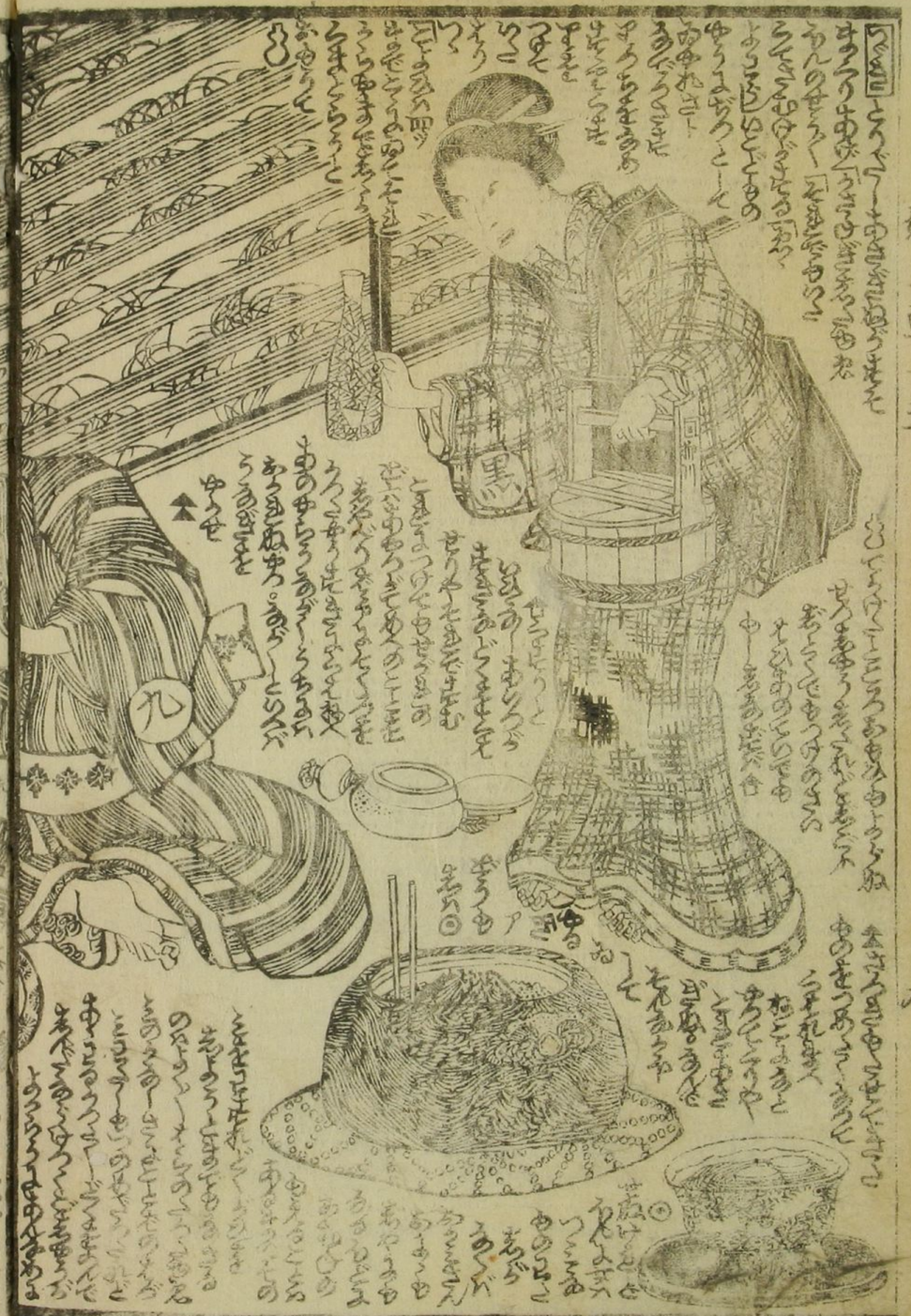
志度六

抑ぎうこ
沙弥香念

妖魔道人
幻の鬼形
現

花垣重三郎

麻

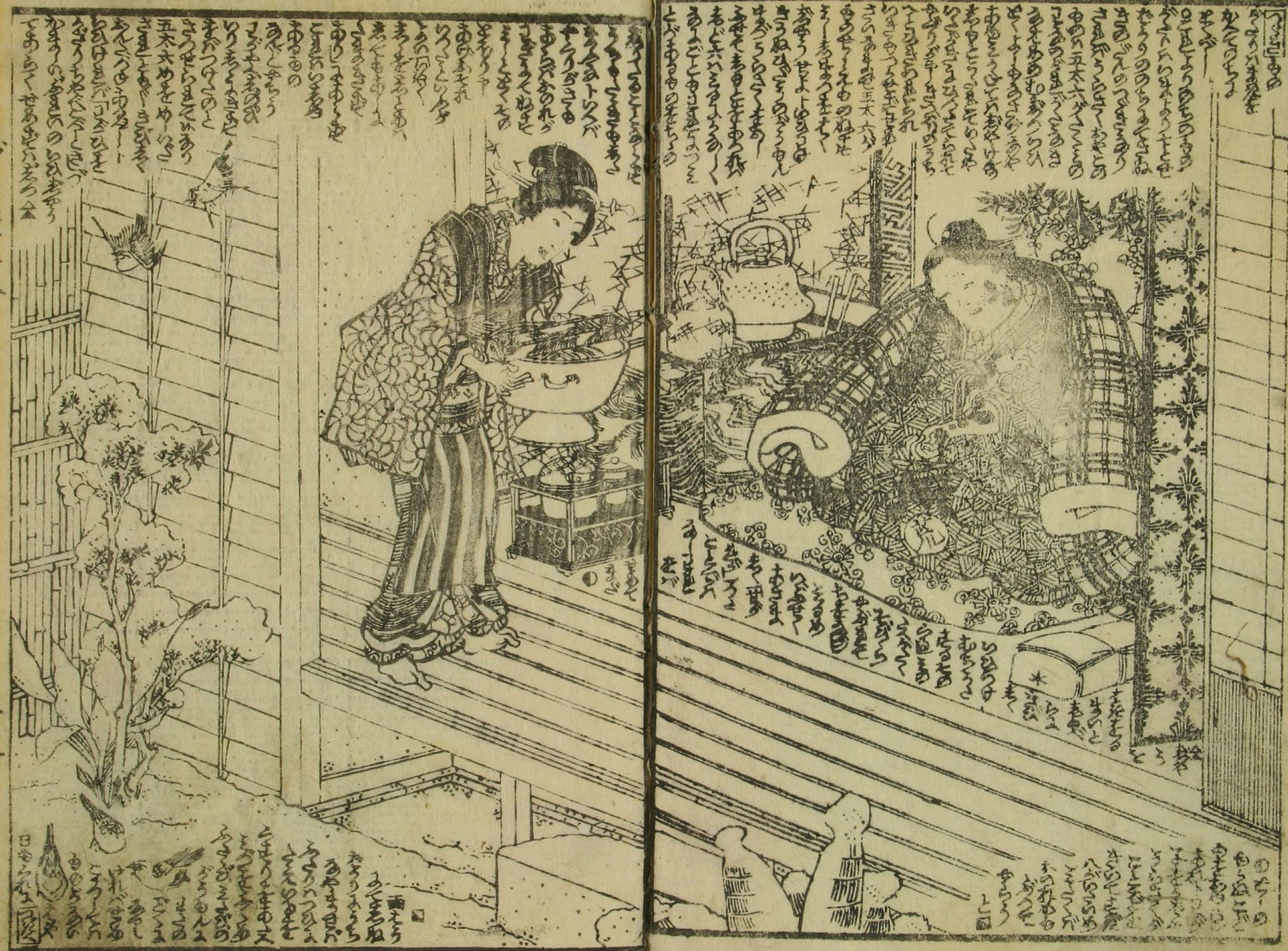


種彦作

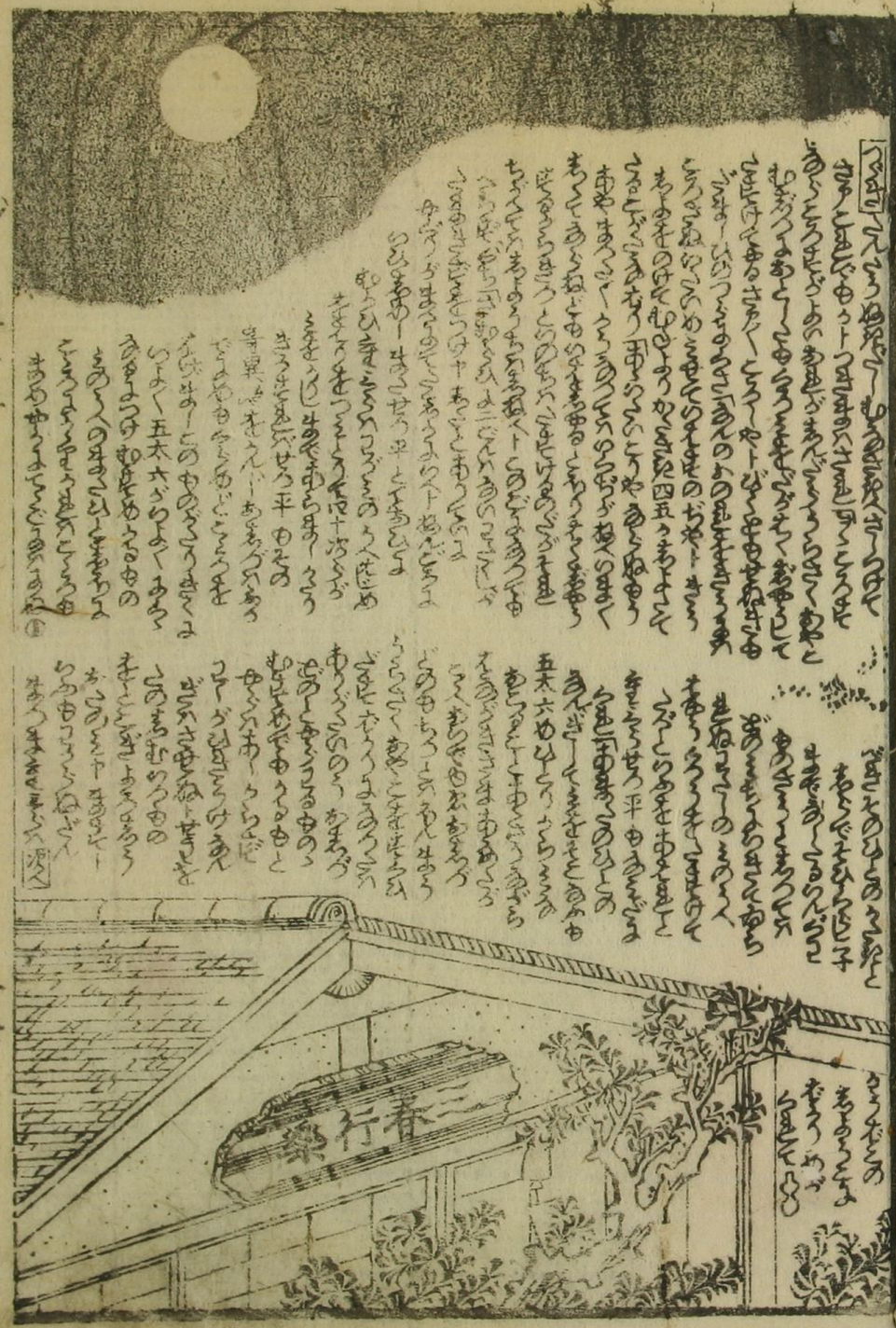
國貞画

御免疝積湯 せんきのゆ茶
信州上田 東山堂製藥
一包 四十八銅
一包 廿四銅

實母散
本家
私方實母さんの家へ中ぎり一町目西ガワ
こゝに生れ 其ほか



此処の画様い
十六編
分解すること作者はあれてこと者
官



十八編上

外題曲亭馬琴

柳亭著

梅蝶楼画

板元 敬白

筆海

四國聞書

作者 種彦

画工 國貞

○このさ[illegible]
弘法大師[illegible]

十六編下

仁英堂摂

十六編上

扇題百人一首

板元 敬白

梅蝶楼重

故人柳下亭ハ越後國ふ遊ぶ彼土雪中の趣き。其地理ふ於て肚裡に在余ハ三越を踏ぶ二尺と積雪を見ぶ妙々車を嗣述せるよ及び北越雪譜を閲ス。面組の助とあ

雪譜

種彦作
国貞画

初段
歌川国貞
画

十六集
下之巻
為永春水
東籍

故人柳下亭ハ越後國ふ遊ばれ彼土雪中の趣き。其地理ふ於て肚裡に在余ハ三越を踏ぜ二尺と積雪を見ぜ。妙々車を嗣述せるに及び北越雪譜を閲く。画組の助とあるを少しいへども。なほ撫ぜの如く。痒処ふ爪ち届このぬぞ口惜きをいだ不知を不知とをて頓着を不。此一帙ふ脱稿ら。偖彼熊乃人を救ひ話ハ件の昏ゐを載く。實事あるを翻案。出藍の筆感ぜ。余亦二を剽竊て。先ロ画ふ魁を取絶壁掻綱の撓を出又ハさろやの見世棚を寫さもるふ。刊本の受賣奇しのらねど。此草冊子の一二度作者の替て追々ふ拙くあるに性く益佳まるハ称じしくあるの年のき

文久二年初秋

柳亭種彦

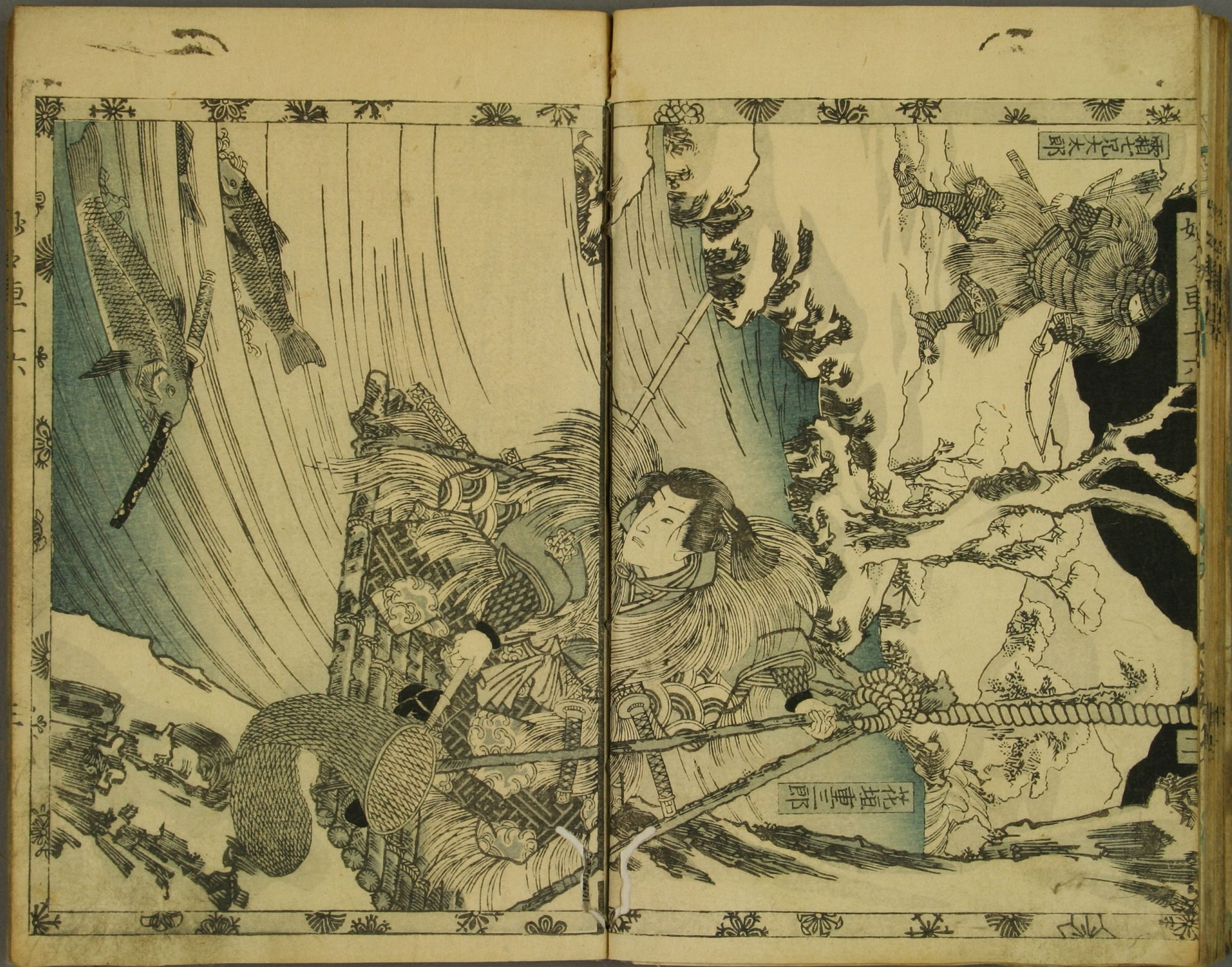
畫譜

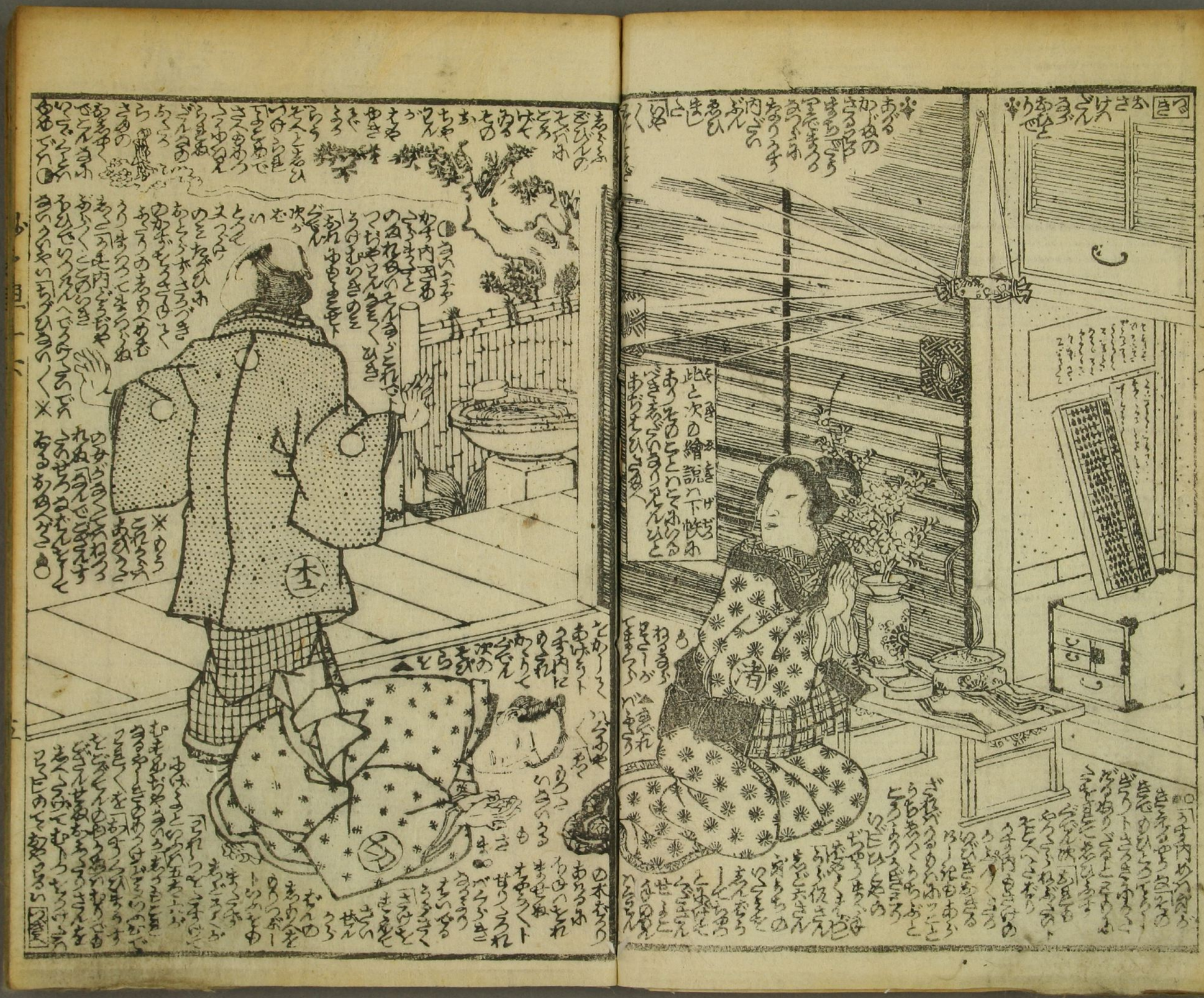
緒言

種彦作
国貞画

少将直十六

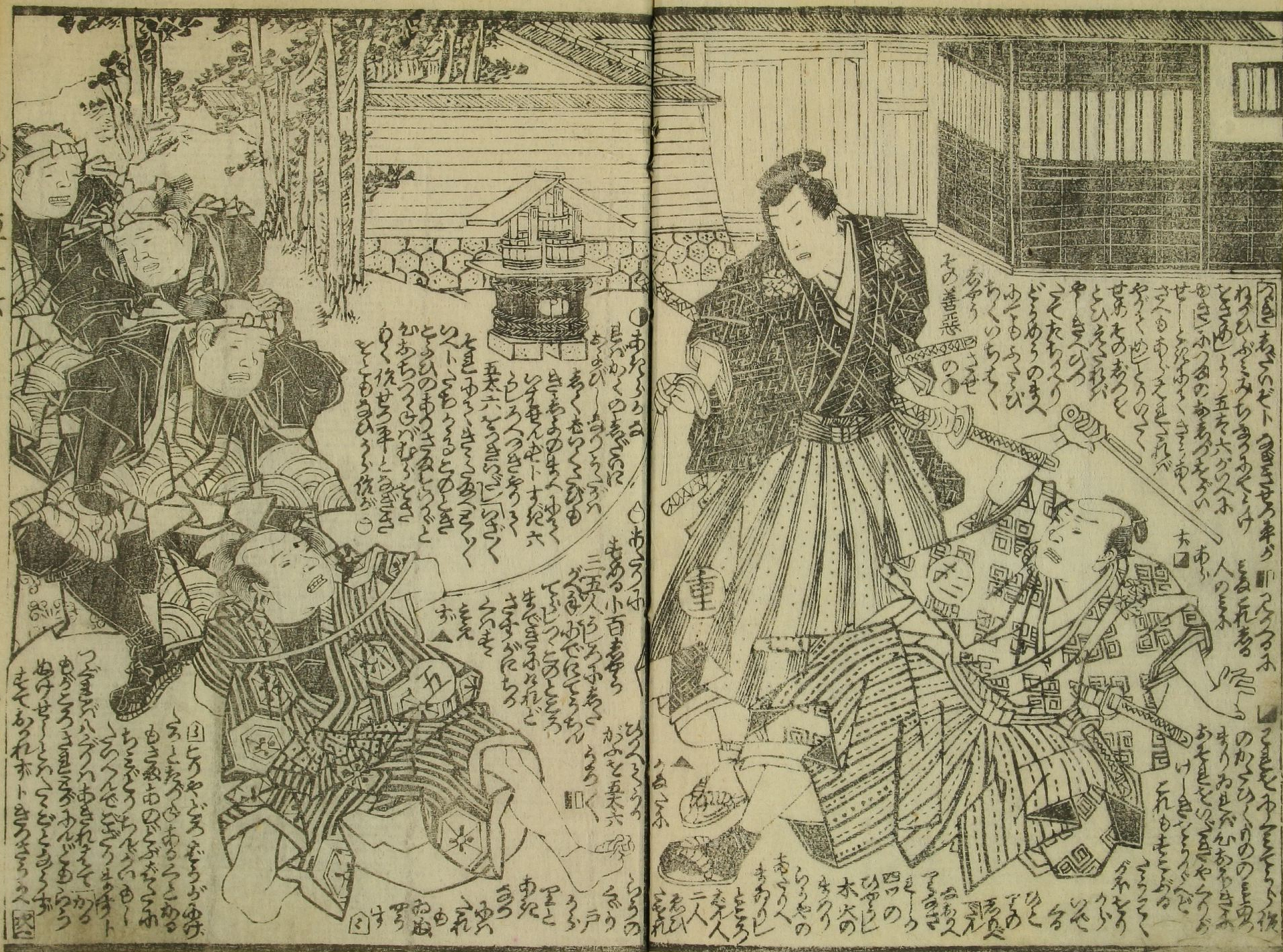
左九郎俊孝討死
如々庵十六


源義経八艘飛び
武蔵坊弁慶



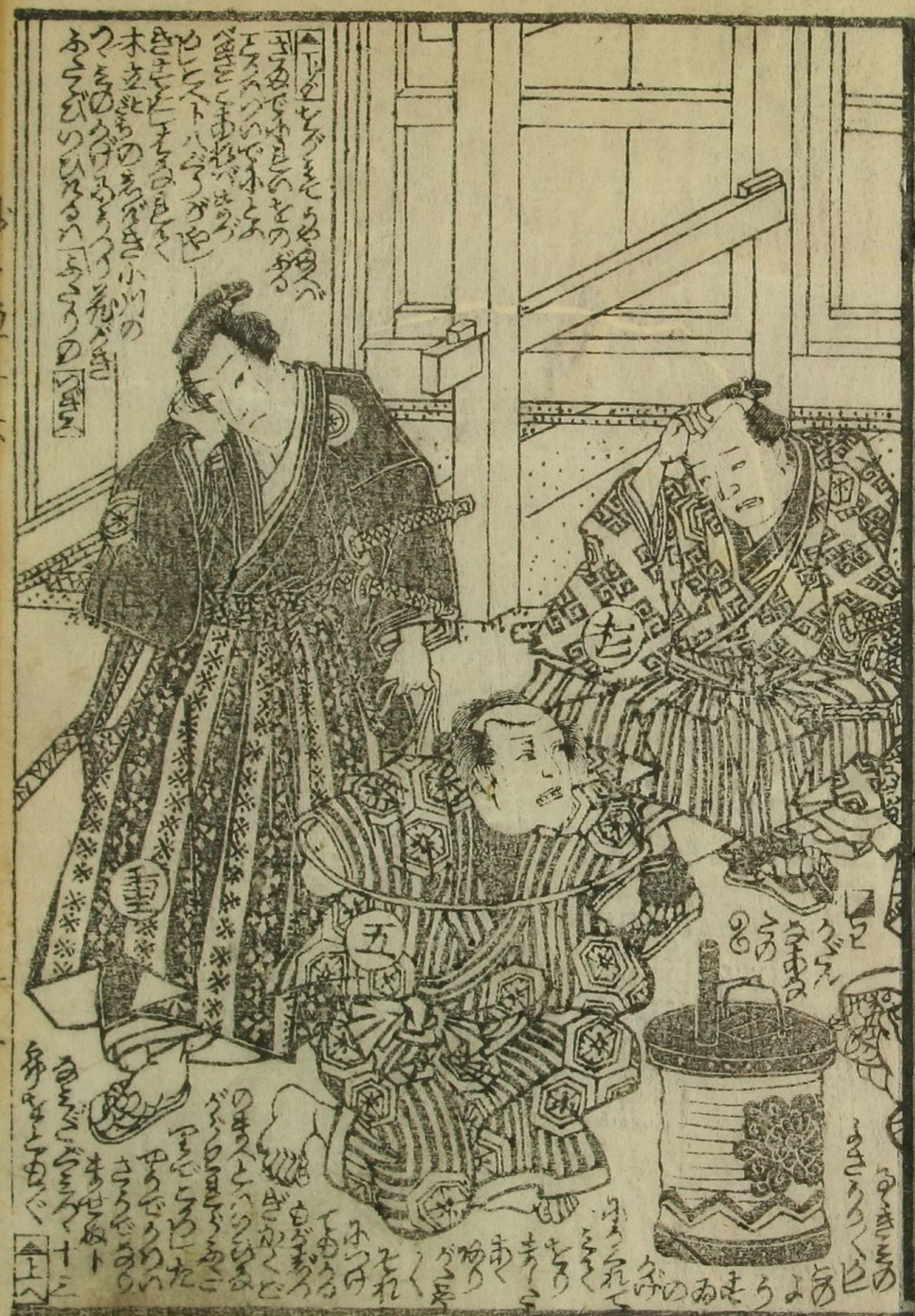
浦

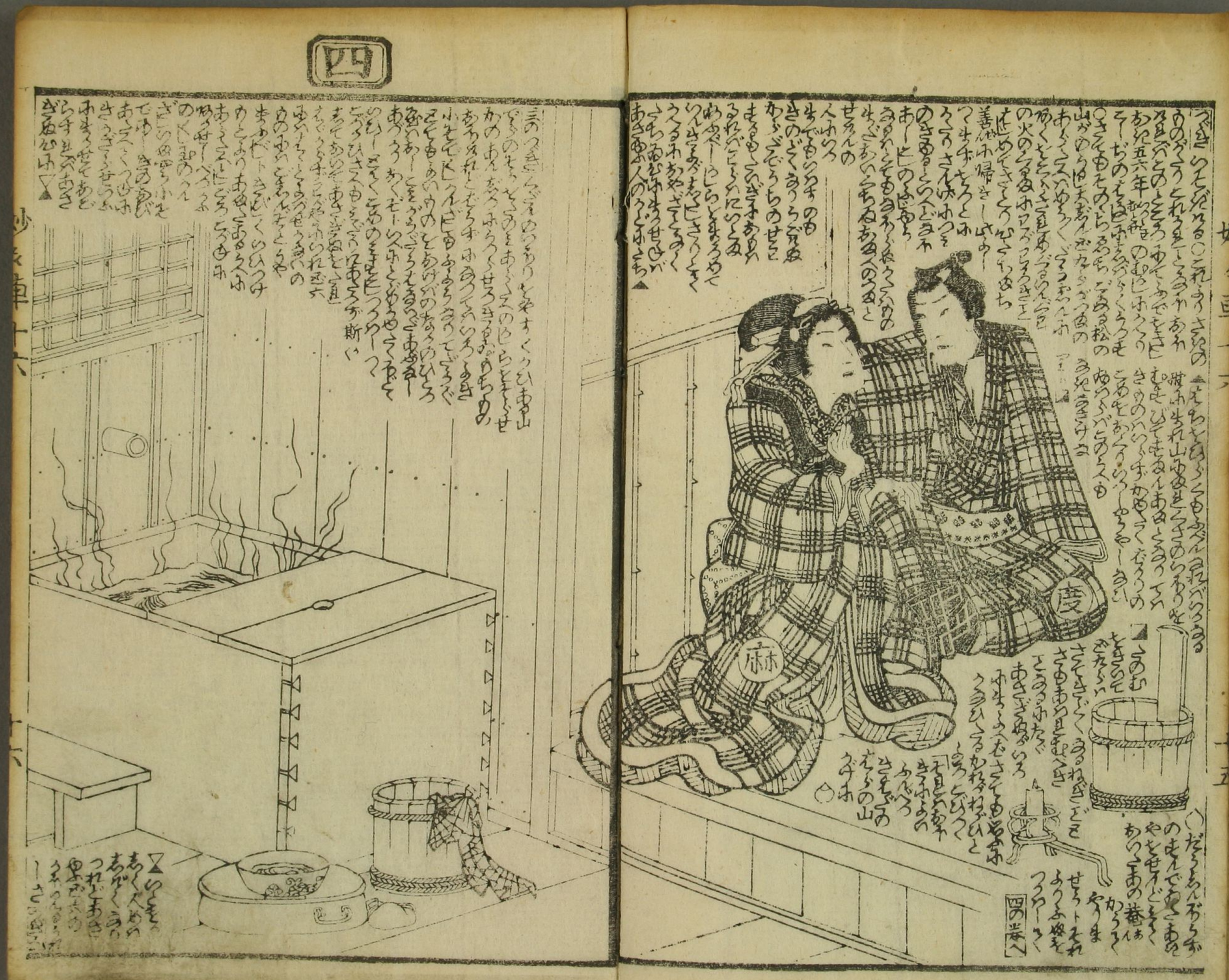
志



御免痳積湯
せんきの妙薬
信州二田東上宿薬舗
一包 廿四銅
四十八銅
本家
寶母散
橋南傳馬町二丁目東
千葉堂孝輔製
濡衣霧雨雙紙
初篇々追々出板
河原崎權十郎作
梅蝶樓國貞画
伊達關戯場取組
初篇々三篇々追々出
梅蝶樓國貞画
胡蝶巻
一名馬琴
初篇々追々出板
柳亭種彦作
梅蝶樓國貞画

三
三の巻より
重


左
五
重


麻
度

極上生薑
せんぎん
雪を
棚のごく
雪譜
作り
賣る
雪譜
いろく

柳亭種彦著　歌川國貞画

つぎ　まろの火のひろかどゐひらめきあるいもあくりらるゑ六ゐろ
ぎんのろもろうべふこそろひゐ
みつけミゝだいいたとろぎもや
ぢいとありとゐいまやつくれこゆい
うゐむひぐさろくゑゐかちろう
まあもえむひゐゆろう人を
そつていあろうぢやトくちゐ
まろもくらもまろきゐた
せいきろくうけきくんも
のちろとあぐれがうのゐ
まぐくぐろくびきする
がゐろひろきぐぬちの
まへゐちとをりいそ
ろそうしぐあれぐひ
ヤスいちぶまあり
ちあいとこあむ
ぎんのろけきん
大ろこそそろちや
うるさいやろいえく
さうぐれとぐうまあ
生アひとゑそり
ゐそゐ成ヤくゑをあきて
うきまくぐきうほ
トまめゐあつそろ
まいづるあさいいぐ
てろりいぐぎ十七
へんゐいたくある
さんまうとのくんい
めそぐしくくく

文久三年癸亥陽春開板標目

弘法大師舊蹟新話　筆海四國聞書　柳亭種彦作　梅蝶樓國貞画

（八編ノ六編ノ当年出板）

權現堂堤復讐　假名情談戀畦倉　瀬川如皐作　梅蝶樓國貞画

（五編ノ六編ノ当年出板）

俤時次郎　俤清里　明鴉黒土恵　迦禰　三亭春馬　柳亭種彦合作　梅蝶樓國貞画

（六編ノ八編ノ当年出板）

童謡妙々車　（十五編ノ十七編ノ出板）　種彦作　國貞画

花封答玉章　一編　種彦作　八編　國貞画

薄伽幻日記　十編　十一編　十二編　春水作　國貞画

犬傳犬の反紙　四五編　柳亭録　四六編　國貞画

地本反紙問屋

南傳馬町壹丁目　蔦屋吉藏板